

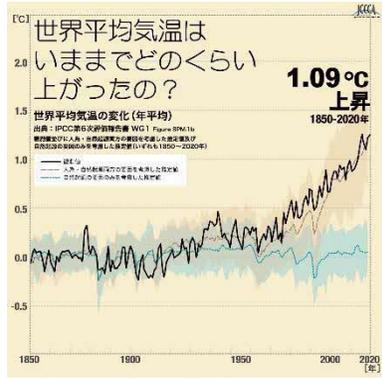
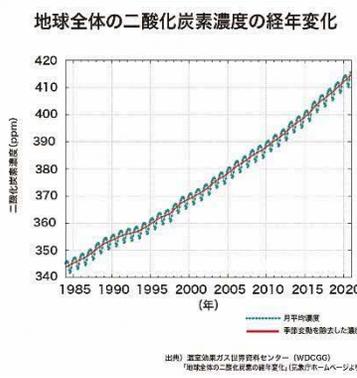
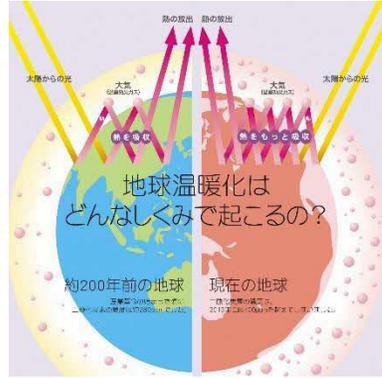
# 2050年ゼロカーボン北海道の実現 に向けた令和5年度管内の現状や 振興局の取組等について

北海道オホーツク総合振興局

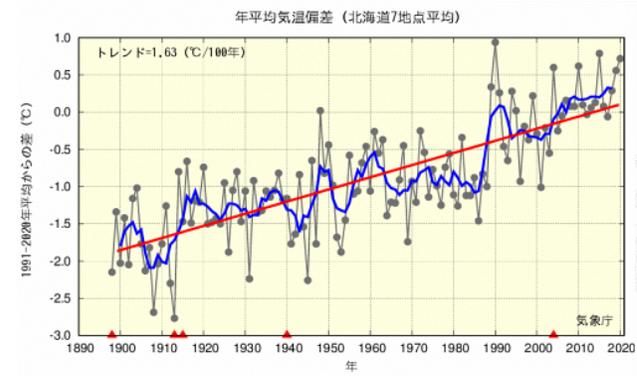


# 脱炭素をめぐる動向(国内外)

## 国内外



## 北海道



1997

**2月 京都議定書の採択**  
温室効果ガスを減らすための国際条約

2015

**12月 パリ協定の採択 (175の国と地域)**  
2020年以降の気候変動問題に関する国際的な枠組み  
世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べ、2℃より十分低く保ちつつ (2℃目標)  
1.5℃に抑える努力を追求 (1.5℃努力目標)

2020

**10月 菅 前総理が2050年カーボンニュートラル宣言**

**3月 知事が2050年までの温室効果ガス排出量実質ゼロを表明**

2021

**4月 2030年度温室効果ガス排出量を新たに表明**

2030年度に2013年度比46%削減を目指し、更に50%の高みに向けて挑戦 (10月決定)

2022

**8月 IPCC (気候変動に関する政府間パネル) 第6次評価報告書**  
「人間の影響が大気、海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がない」

**3月 北海道地球温暖化対策推進計画 (第3次) の改定**  
2030年度までに2013年度比**48%削減**、2050年度までに**ゼロカーボン北海道**を実現

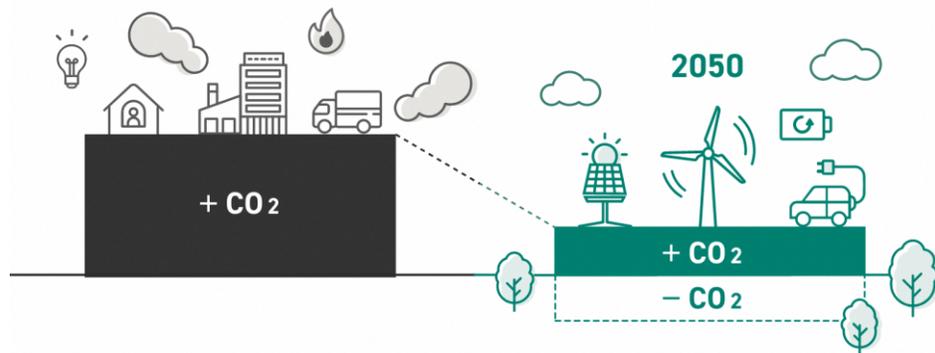
2023

**10月~11月 COP26 (イギリス・グラスゴー)**  
グラスゴー気候合意として公式文書に1.5℃目標が明記され、基準が1.5℃に事実上設定

**3月 北海道地球温暖化防止対策条例の改定**

出典：全国地球温暖化防止活動推進センター、札幌管区気象台、北海道立流水科学センター

## ゼロカーボン（カーボンニュートラル）とは



- ☑ ゼロカーボン（カーボンニュートラル）とは、温室効果ガスの排出量から、植林、森林管理などによる吸収量を差し引いて、合計を実質的にゼロにすること
- ☑ ゼロカーボン（カーボンニュートラル）の達成のためには、温室効果ガスの排出量の削減並びに吸収作用の保全及び強化を必要

## ゼロカーボン北海道とは

- ☑ ゼロカーボン（温室効果ガスの排出量と森林等の吸収量の均衡が保たれている）が実現されるとともに、環境の保全、経済の発展及び道民生活の向上が図られた持続可能で活力あふれる北海道のこと（条例第2条）

### ゼロカーボンに向けた取組を通じて、経済の発展、生活の向上を図る

#### ゼロカーボンの取組により期待される効果

- ☑ 高い再エネポテンシャルを生かし、脱炭素関連等の企業を誘致
- ☑ 資源の地産地消による災害に強い地域づくり、地域経済の活性化
- ☑ 脱炭素型ライフスタイルへの転換
- ☑ 森林の整備や環境保全型農業の推進などによる、温室効果ガス吸収源の確保

#### 2050年のゼロカーボン北海道のイメージ



温室効果ガス  
排出量と吸収量  
の均衡

環境の保全  
経済の発展  
道民生活の向上

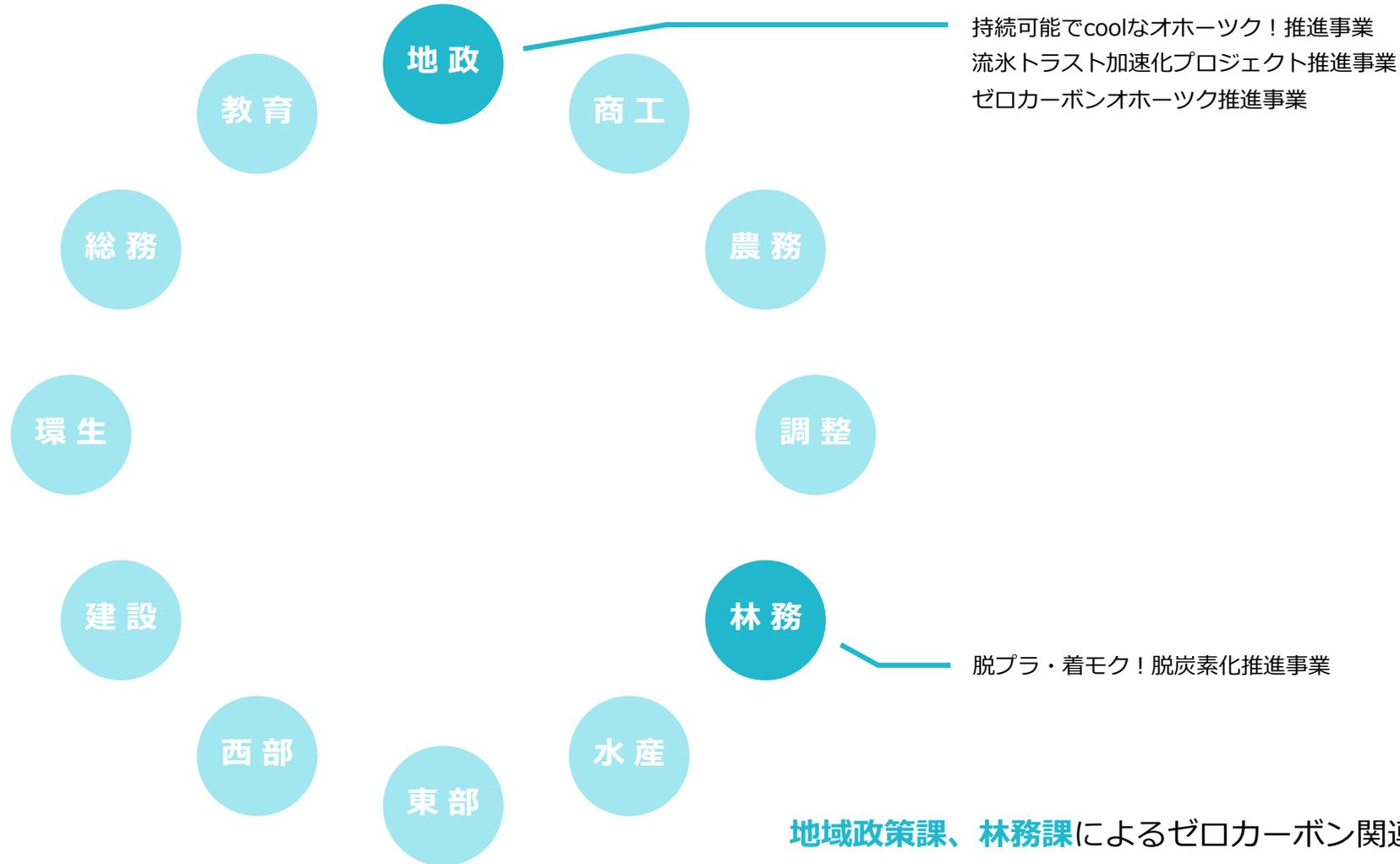
持続可能で活力あふれる北海道

# 振興局における推進体制



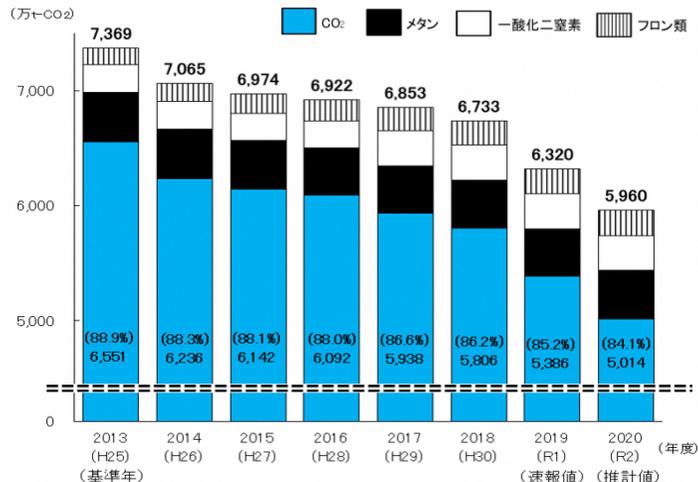
2021年3月～ 振興局に「**地方推進本部**」・「**オホーツク地域ゼロカーボン推進室**」を設置

☑ 地域の実情に合わせた取組を局内関係課が機動的に連携し、ゼロカーボンに向けた取組を推進・促進

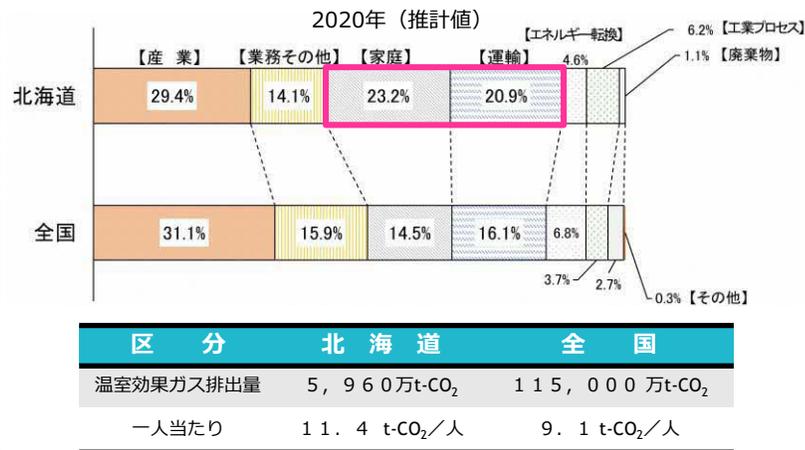


# 北海道の現状と課題(排出量・吸収源)

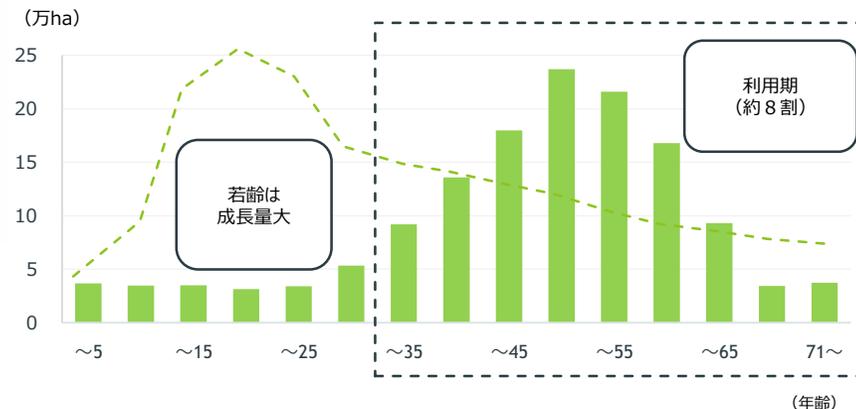
## 道内の温室効果ガス排出量



## 部門別排出量の構成比・一人当たり排出量

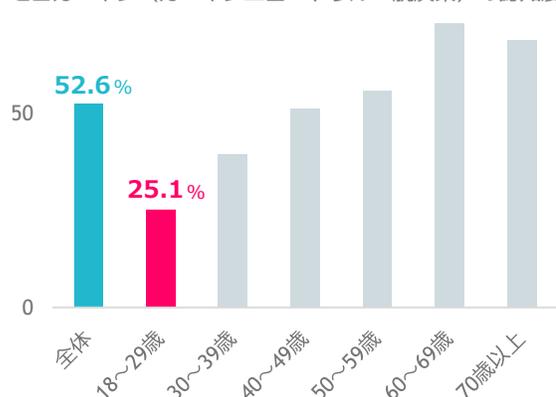


## 道内人工林の面積と成長量

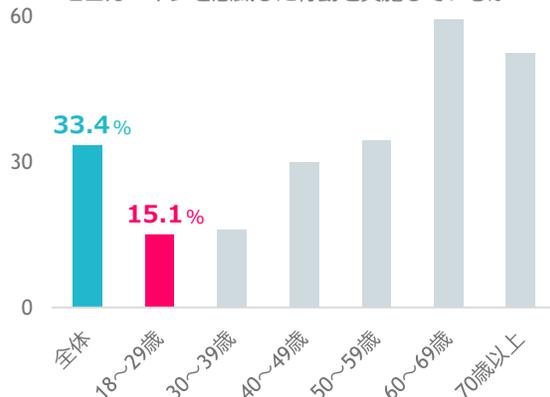


## 道民のゼロカーボンの認知度・意識した行動

ゼロカーボン（カーボンニュートラル・脱炭素）の認知度



ゼロカーボンを意識した行動を実施しているか



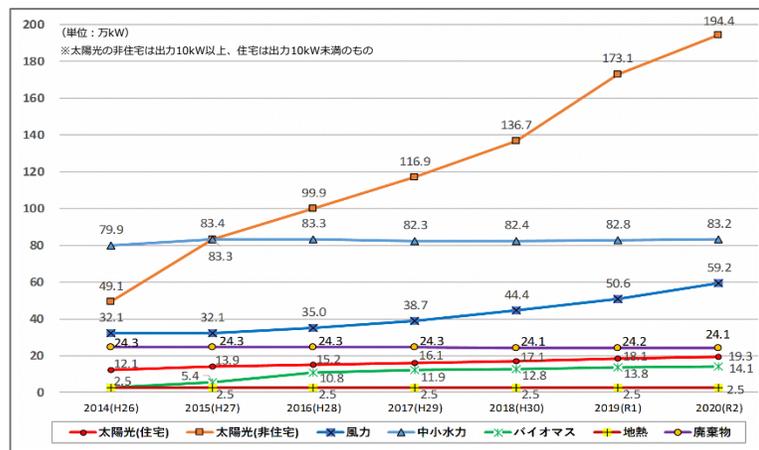
## Point !

- ☑ 道内の温室効果ガス排出量は、2002年(7,547万t-CO<sub>2</sub>)をピークに2013年以降**減少傾向**
- ☑ 部門別のCO<sub>2</sub>排出量は、全国と比べ、**家庭部門及び運輸部門の割合が高い**
- ☑ 一人当たりの温室効果ガス排出量は、全国と比べ、**約1.3倍と高い水準**
  - ▶ 積雪寒冷により灯油等の使用量が多いことや、広域分散型で自動車への依存度が高いという北海道の地域特性へ対応する取組が必要
- ☑ 本道は、全国一豊かな森林資源に恵まれる一方で人工林が高齢化
  - ▶ **計画的な森林の整備や算定対象森林の確保、道産木材利用促進等が必要**
- ☑ 道内において、ゼロカーボンを認知している割合は、約**5割**に留まり、ゼロカーボンを意識した行動を実施している割合も約**3割**に留まる (**若年層ほど低い割合**)
  - ▶ **道民、とりわけ若年層への理解促進やライフスタイル転換を促す取組が必要**

# 北海道の現状と課題(エネルギー・市町村)



## 道内の新エネルギー導入状況



## 再エネ導入ポテンシャル

**太陽光発電** 導入ポテンシャル **全国1位**

**中小水力発電** 導入ポテンシャル **全国1位**

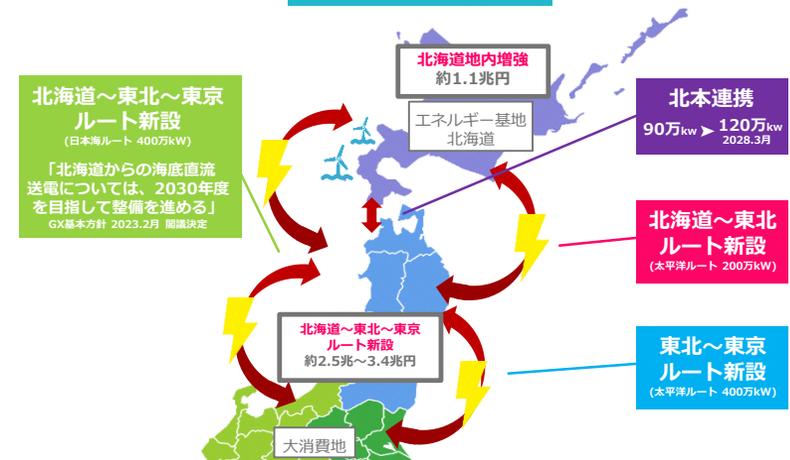
**地熱発電** 導入ポテンシャル **全国1位**

**バイオマス** 産都市数(36市町村) **全国1位**

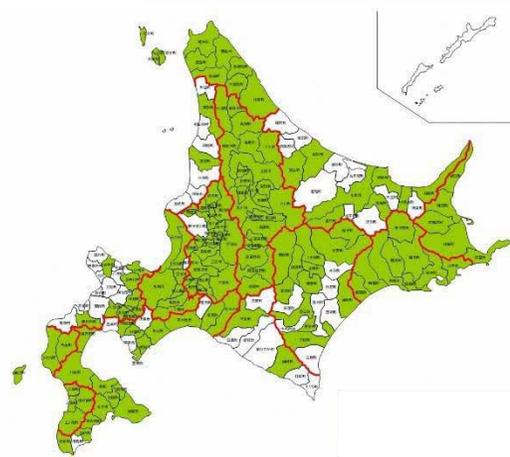
**風力発電** 導入ポテンシャル **全国1位**



## 広域系統整備



## ゼロカーボンシティ宣言・実行計画策定状況



ゼロカーボンシティ宣言 **134 / 179** 市町村

※ 2050年までにCO<sub>2</sub>を実質ゼロをすることを目標を表明した自治体  
※ 2023.6.30現在

実行計画(事務事業編) **162 / 179** 市町村

※ 地球温暖化対策推進法第21条に基づき、都道府県及び市町村の事務及び事業に関し、計画策定を義務付け  
※ 2022.3月現在

実行計画(区域施策編) **22 / 179** 市町村

※ 地球温暖化対策推進法第21条3に基づき、都道府県、指定都市等に対して、区域での施策事項の策定を義務付け(中核市未満は努力義務)  
※ 2022.3月現在

## Point !

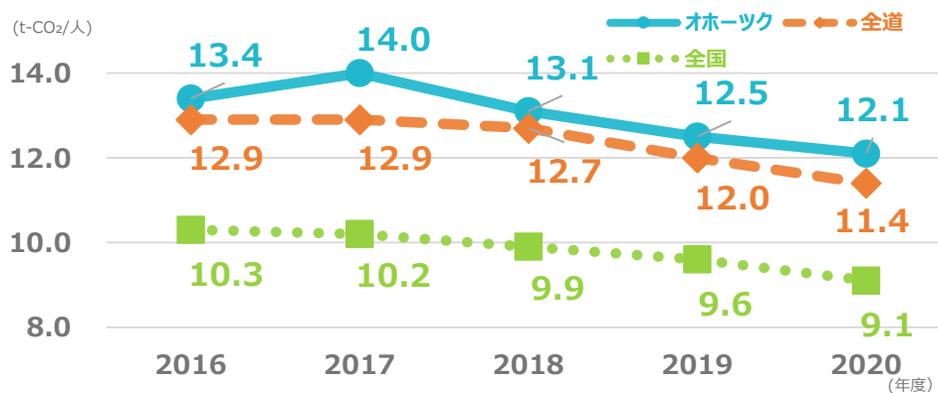
- ☑ 道内の新エネルギー導入については、太陽光を筆頭に年々増加傾向
- ☑ 太陽光や風力発電の導入ポテンシャルが全国1位等、全国随一のポテンシャルを誇り、特に、安定的かつ高効率の発電が可能な**洋上風力発電**が切り札に
  - ▶ 電力需要が小さく系統制約が顕在化、送電網整備が高コストで本州との電力融通にも制約があり、系統整備が課題
- ☑ 2023年3月に広域系統長期方針(広域連携システムのマスタープラン)が策定され、**北海道と本州間ルートに2.5兆円から3.4兆円**で、また、**道内地内システムの増強に1.1兆円**といった送電網増強策が示され、電力安定供給とゼロカーボン北海道の実現に向け、大きく前進
- ☑ 道内においても、世界的なカーボンニュートラル実現に向けて、取組が加速化
  - ▶ 取組進捗に濃淡があり、更なる取組加速化のため、地域実情に合わせた伴走支援が必要

# オホーツクの現状と課題

## 管内の道内比較

	全道	オホーツク	全道比
面積 km <sup>2</sup>	83,424	10,691	12.8%
人口人	5,224,614	273,362	5.2%
年平均気温 °C	10.2 (札幌)	7.9 (網走)	-
発電設備容量 kW	396.8万	28.2	7.1%
CO <sub>2</sub> 排出量 t-CO <sub>2</sub>	5,002.0万	300.6万	6.0%

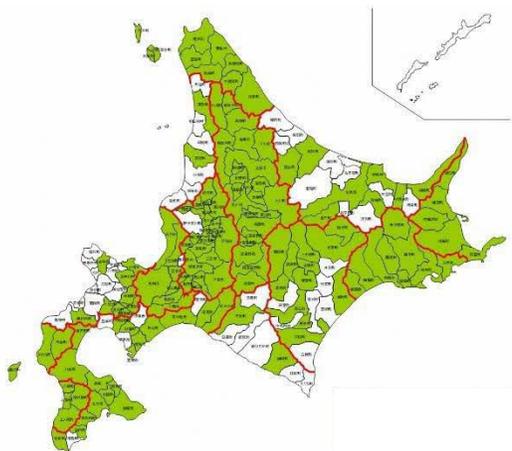
一人当たりの温室効果ガス排出量の推移（オホーツク・全道・全国）



## 再エネ導入ポテンシャルと導入状況

分類	項目	設備容量 (万kW/TJ)	
		ポテンシャル	R2実績
発電	太陽光	5,228.6	19.21
	風力	4,094.2	0.001
	中小水力	1.7	2.91
	バイオマス	-	5.91
熱利用	地熱	2.8	-
	バイオマス 地中熱	- 13,300	- -

## ゼロカーボンシティ宣言・実行計画策定状況



ゼロカーボンシティ宣言 **8 / 18**市町村

※ 2050年までにCO<sub>2</sub>を実質ゼロをすることを旨を表明した自治体  
※ 2023.6.30現在

実行計画（事務事業編） **18 / 18**市町村

※ 地球温暖化対策推進法第21条に基づき、都道府県及び市町村の事務及び事業に関し、計画策定を義務付け  
※ 2023.6.1現在

実行計画（区域施策編） **3 / 18**市町村

※ 地球温暖化対策推進法第21条3に基づき、都道府県、指定都市等に対して、区域での施策事項の策定を義務付け（中核市未満は努力義務）  
※ 2023.6.1現在

## Point !

- ☑ 道内でも寒冷広域分散型の地域であり、**人口比に対してCO<sub>2</sub>排出割合が高い**
- ☑ 太陽光・風力ともに高い再エネ導入ポテンシャルを有する一方で、**導入が不十分**
- ☑ 全道の約14%を占める森林面積を有する等、**豊富なバイオマス資源を活かした取組が進み、先進的な取組も見られる**
  - ▶ **安定供給に向けた対応や送電線整備負担が大きい等の課題**
- ☑ 管内市町村においては、**着実に脱炭素化の取組が推進されつつある状況**
  - ▶ **実行計画区域施策編を策定し、具体的な施策展開段階にある市町村がある一方で、実行計画事務事業編の計画切れに対応していない市町村がある等、取組に濃淡がある中で、実情に合わせた伴走支援が必要**